

⑤八高線由来

八高線は、東京都八王子市の八王子駅から群馬県高崎市の倉賀野駅までを結ぶ東日本旅客鉄道（JR東日本）の鉄道路線（地方交通線）である。

八高線の北側区間における実際の運行は、倉賀野駅を始発・終着とする列車はなく、全列車が隣駅である高崎線の高崎駅を起終点とする。路線名は、八王子の「八」と高崎の「高」に由来する。

高麗川駅以北の区間は埼玉県内では唯一、かつ群馬県内ではわたらせ渓谷鉄道線とともに数少ない非電化区間となっている。

（出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』）



非電化区間の主力車両キハ110系（左）と電化区間の主力車両E231系3000番台（右）

（出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』）

⑥ポッポ道

この遊歩道は、昭和30年から太平洋セメント（株）埼玉工場（旧日本セメント（株））の操業に伴い、セメント原材料及び製品を運搬していた側線敷きでありました。昭和58年に主原料である石灰石を搬送する地下ベルトコンベアが稼働し、平成11年にセメント出荷用の鉄道輸送が廃止され残されたものです。平成21年3月、太平洋セメント株式会社様の御好意により側線敷き用地を寄附していただき、子ども達が安心して歩ける遊歩道として整備し、鉄道が活躍していた当時の趣を残したものであります。（ポッポ道看板より）



2021年3月9日撮影畑中

⑦太平洋セメント（株）日高工場

ごみ資源化処理とは、市内から発生する可燃ごみ（燃えるもの、プラスチック類、ガラス、セトモノ）を太平洋セメント株式会社埼玉工場（日高市大字原宿721番地）の資源化処理施設に入れて3日間かけて発酵させセメントの原料、燃料となる資源化物を作るものです。これを併設するセメント焼成キルンに移し、1,450度で焼成し、セメントにします。3つのメリットがあります。

1. 焼却灰が出ません。2. ダイオキシン類の発生が低く抑えられます。
3. ごみの分別が軽減されます。（日高市ホームページより）

日高市内で発生する家庭ごみのセメント資源化を開始しました。この技術は、第4回さいたま環境賞／彩の国エコアップ大賞や、2005年度資源循環技術 システム表彰／経済産業大臣賞を受賞するなどの高い評価を得て、国内外から多数の見学者が来場しています。また、2015年には東日本大震災で発生した災害廃棄物の利活用の推進に関して、土木学会から表彰を受けました。（太平洋セメント（株）埼玉工場より抜粋）



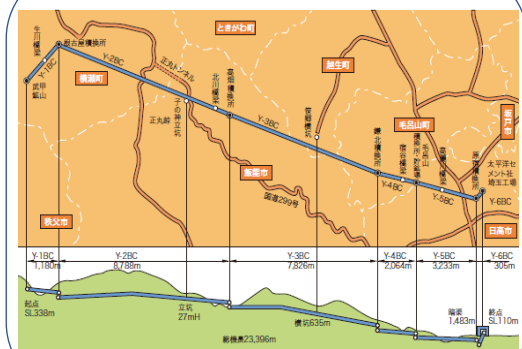
太平洋セメント（株）埼玉工場より

⑧セメント材料輸送（ベルトコンベア）

石灰石は秩父市郊外に所在する武甲鉱山で採掘され、国内有数の長さを誇る地中式長距離ベルトコンベア（Yルート）で直接工場内に輸送されます。（太平洋セメント（株）埼玉工場より抜粋）

総延長23.4km、その97%を地下に設置、5地点に積換所を設け、スチールコードベルトコンベア6基を繋いだもので、各所に集塵機やサイレンサ、監視カメラや通信網を配置し、光ファイバーケーブルで鉱山側中央制御室から集中制御しています。

（武甲鉱業株式会社ホームページより抜粋）



武甲鉱業株式会社ホームページより